

2016年9月中の長期国債買入れ等の運営について

1. 日本銀行は、本日の政策委員会・金融政策決定会合において、「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」の導入を決定しました。

これを踏まえ、日本銀行は、既存の長期国債買入れ、および、新たに導入された「日本銀行が指定する利回りによる国債買入れ」（指値オペ）のそれぞれについて、本日以降、9月中は、以下のとおり運営することとします（詳細は次頁）。

	既存の長期国債買入れ ＜利回り入札方式＞	指値オペ（新規導入） <sup>（注2）</sup> ＜固定利回り方式＞
買入対象国債	従来通り（利付国債） <sup>（注1）</sup>	カレント銘柄を中心とする利付国債
買入頻度	従来通り <sup>（注1）</sup>	必要に応じて随時
1回当たりオファー金額	直近オファー額をベースに決定	固定額または無制限
買入利回り	従来通り（コンベンショナル方式による利回り入札） <sup>（注1）</sup>	日本銀行が指定

（注1）「当面の長期国債買入れの運営について」（8月31日公表）のとおり運営する。  
なお、既存の長期国債買入れのうち、価格入札方式で行う変動利付債、物価連動債の買入れについても同公表文のとおり運営する。

（注2）今回の枠組みの変更に伴って、イールドカーブが概ね現状程度の水準から大きく変動することを防止するため、金利が上昇した場合などには、例えば10年金利、20年金利を対象とした指値オペを実施する用意がある。

【既存の長期国債買入れ<利回り入札方式>】

- ・ 基本的に、8月31日に公表した「当面の長期国債買入れの運営について」のとおり運営します。
- ・ 1回当たりの具体的なオファー金額は、いずれの国債種類・残存期間ともに、直近のオファー金額をベースに決定します。ただし、金利操作方針を実現するため、市場の動向等を踏まえて、オファー金額を変更することがあります。
- ・ 買入利回りについて、今後は、金利操作方針を実現するため、市場の動向等を踏まえて、買入利回りに下限を設けて入札を行う場合があります。

【指値オペ<固定利回り方式>】

- ・ 買入対象国債は利付国債（2年債、5年債、10年債、20年債、30年債、40年債）とします。具体的には、これらのうち、各年限のカレント銘柄を中心に買入れを実施します。
- ・ 1回当たりのオファー金額については、市場の動向等に応じて、これを定めて買入れを行う場合と、これを定めず、金額を無制限として買入れを行う場合があります。
- ・ 買入利回りは、オファーの都度、日本銀行が別に定める基準利回りからの利回較差を示すことによって指定します。

2. 金融市場調節の一環として行う国庫短期証券の買入れについては、当初は、概ね現状程度の残高を維持するよう運営することとします。

3. 日本銀行では、今後とも、原則として、毎月の最終営業日に、翌月以降の長期国債買入れの運営方針を公表します。また、今後は、国庫短期証券買入れに関する大まかな運営方針も、同時に公表します。次回は、2016年9月30日17時に、10月以降に適用する運営方針を公表する予定です。

以 上

<照会先>

日本銀行金融市場局市場調節課 奥野 (03-3277-1234)、安藤 (03-3277-1284)